

## 4. 大隅諸島系土器の分布とその意味

石堂和博

南種子町教育委員会

具志堅清大

沖縄県立埋蔵文化財センター

ISHIDO Takahiro

Minamitane Town Board of Education

GUSHIKEN Seita

Okinawa Prefectural Archeological Center

### 1. はじめに

3～7世紀の埋葬址である種子島広田遺跡では、消費された貝殻の産地、広田遺跡特有の貝製品の奄美・沖縄での分布、南九州の型式の土器の存在から、広田人と奄美・沖縄地域及び九州島との間に継続的な人的交流のあったことは明らかである。

この時期の大隅諸島に展開するのは、「大隅諸島系土器」（新里2009）と呼ばれる様式の土器群で、幅広突帯・沈線文・充実脚台に象徴される甕を主体とした独自の土器群である。大隅諸島系土器は、大きく鳥ノ峯式、広田式、上能野式に分けられ、種子島、屋久島、馬毛島にほぼ限定的に分布するとされる（本書石堂論文）。本節では近年新たに確認された資料に加え、沖縄における調査によって新たに確認した大隅諸島系土器の事例を報告し、その分布の意味を検討する。

### 2. 九州と琉球列島における大隅諸島系土器の分布

大隅諸島系土器は3～8世紀の在土器様式であり、共伴関係や型式学的な検討から鳥ノ峯式（弥生時代後期後半～古墳時代前期前半）、広田式（古墳時代前期後半～後期前半、広田遺跡下層期）、上能野式（古墳時代後期後半～8世紀、広田遺跡上層期段階）に大きく分けられる（盛園1961、本書石

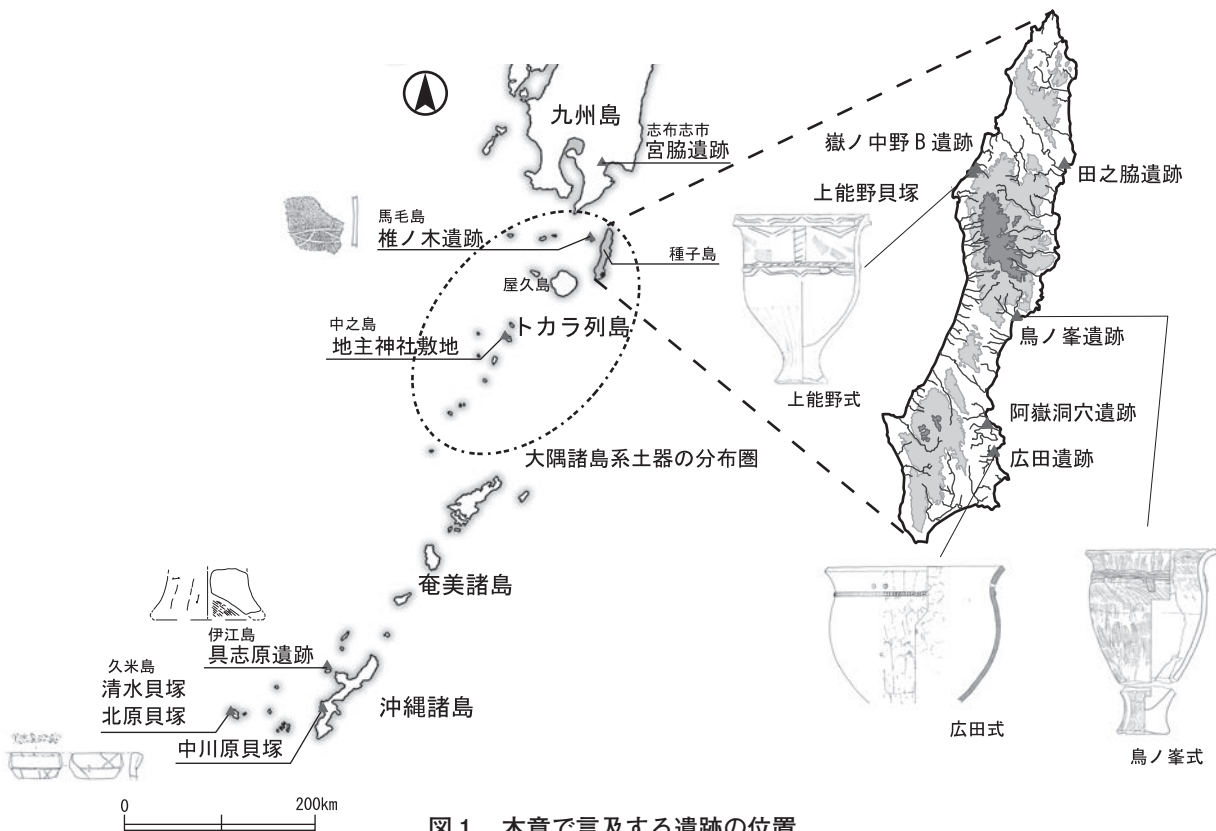


図1 本章で言及する遺跡の位置

堂論文)。鳥ノ峯式は、免田式～中津野式、広田式は下層タイプ貝符、上能野式は上層タイプ貝符の時期と概ね一致する。これらの土器型式は、九州島からの土器・ガラス小玉の搬入や、奄美・沖縄地域と共通する貝符習俗を有するにも拘わらず、その分布域は大隅諸島に限定されると理解されてきた。

### 2.1. 大隅諸島、トカラ列島、九州島、奄美群島における分布

大隅諸島系土器が出土する遺跡は、大隅諸島で24遺跡、トカラ列島で1遺跡が知られるものの、九州島では出土例がない(表1)。近年の調査で、トカラ列島中之島の地主神社敷地内で鳥ノ峯式～広田式の甕が出土し(新里2017)、大隅諸島系土器はトカラ列島まで分布することが明らかとなった(図1)。トカラ列島出土の大隅諸島系土器は、その胎土にトカラ列島に産しない金雲母を多く含み、全体の雰囲気からも大隅諸島で作られ、搬入されたものである可能性が高い。

なお、筆者(石堂)は、2014年に中之島地主神社敷地内で、成川式(東原式)とみられる甕の口縁部を1点表面採集している。この資料もその胎土から南九州で製作された搬入品とみてよい。奄美群島では、マツノト遺跡から出土した肥厚口縁状を呈する甕型土器口縁部片2点に上能野式の影響が認められ、川口によって報告されている(川口2019)。この資料の肥厚口縁の形状は断面方形に近く、上能野式新段階に類似する。

大隅半島の肝付平野では、志布志市宮脇遺跡の笹貫式甕に縦位の貼付文が施されるものが報告されている(相美2014)。川口は、志布志市安良遺跡出土の甕形土器口縁部片2点について、上能野式の搬入品の可能性が高いとし、相美が指摘した宮脇遺跡例や上苑A遺跡の甕形土器口縁部片の口縁部を肥厚化させる製作技法と縦位の貼付文に、上能野式の影響を想定している(川口2019)。相美・川口が指摘するように、縦位の貼付文は成川式及び本土周辺地域に見出し難しく、現状では、上能野式ないしは兼久式の影響と理解することが妥当である。また、川口が上能野式の搬入品の可能性が高いとした安良遺跡出土の甕形土器は、確かに胎土の雰囲気や肥厚化した口縁部の形状などが上能野式中段階に類似する。筆者も実見したが、上能野式の影響を受けたものか、搬入品の可能性があるという指摘は同意できる。一方で、この資料のような金雲母と混和材として粗く白みがかった砂粒を含む胎土のありかたは、大隅半島の花崗岩起源の砂を混和材として使用した大隅半島在地の土器胎土にも認められる。さらに、川口も指摘しているが、これらの資料は口縁部の肥厚帯が短く、肥厚化も顕著ではないため、疑いなく上能野式の搬入品と認められるものではない点に課題が残る。中性子放射化分析などの理化学的手法によるクロスチェックや、資料の増加に期待したい。なお、川口・相美の指摘する縦位の貼付文は、現状では上能野式の中段階以降に認められるものであり、本資料も上能野式中段階に類似し、この段階以降で類例が増加する。(石堂)

### 2.2. 沖縄諸島における分布

沖縄諸島には、九州弥生地域との「南海産貝交易(木下1989)」によって九州本土や奄美群島から多数の搬入土器がもたらされている。一方で、大隅諸島系土器については、これまでに沖縄諸島における明確な出土事例は報告されていない。

大隅諸島系土器が沖縄諸島にどの程度搬入されているのかを把握するため、当該時期に並行関係にある沖縄貝塚時代後期遺跡出土資料の再確認を行った(表2)。資料調査は、搬入土器を中心に報告書の再確認及び可能な限り実見した。資料調査の結果として僅かに大隅諸島系土器に類似する資料を確認したため、当該資料の特徴について紹介する。

具志原貝塚 伊江島南海岸の砂丘に形成された貝塚で、沖縄諸島で初めて弥生土器が発見され、当該期の九州島と沖縄諸島との交渉を明らかにした著名な遺跡である(友寄・高宮1968、友寄1970)。

以前に筆者らは具志原貝塚出土の甕形土器脚部資料について着目し、弥生時代後期後半～古墳時代

並行期に位置付けられる大隅諸島の甕形土器に胎土や形態が類似することを述べた（具志堅・石堂2017）。昭和59年度の沖縄県教育委員会による発掘調査出土資料で、在地土器は大当原式主体、搬入土器として免田式土器や後期～古墳時代壺が出土している。この他、広田上層タイプの貝符のほか、搬入品として鉄鉱石やガラス玉も出土している（沖縄県教育委員会1985）。報告書未掲載資料を含め、資料の確認を行った結果、以前報告した甕形土器脚部資料の同一個体とみられる胴部片を確認した。

図2-1の胴部は内外面に粗い刷毛目状の調整痕が認められる。内面は煤により黒色を呈している。2の脚部は、以前に大隅諸島産の可能性のあるものとして紹介した資料である（具志堅・石堂2017）。外面は刷毛目状調整後に、入念にナデ消しを行っている。脚部内面は、指おさえと粗い刷毛目状調整が認められる。1・2は胎土の特徴から同一個体とみられる。黄橙色で多量の雲母を含む胎土の特徴から、搬入土器と考えられる。

中川原貝塚：読谷村渡慶次字中川原の海浜砂丘地に立地する遺跡で、平成2年度に読谷村教育委員会により発掘調査が行われている。上層ではアカジャンガー式、下層では浜屋原式が出土している。当該貝塚を含む読谷村内遺跡出土の弥生土器・弥生系土器が報告されている（仲宗根ほか2001）。図2-3は、弥生中期中葉の弥生土器（入来Ⅱ式～山ノ口Ⅰ式段階）の模倣土器として、胎土・色調が大隅諸島的であると報告されている資料である。甕形土器の口縁部で、赤褐色の砂質で多量の雲母を含む胎土の特徴は、大隅諸島の胎土によく似ている印象を受けるものである。

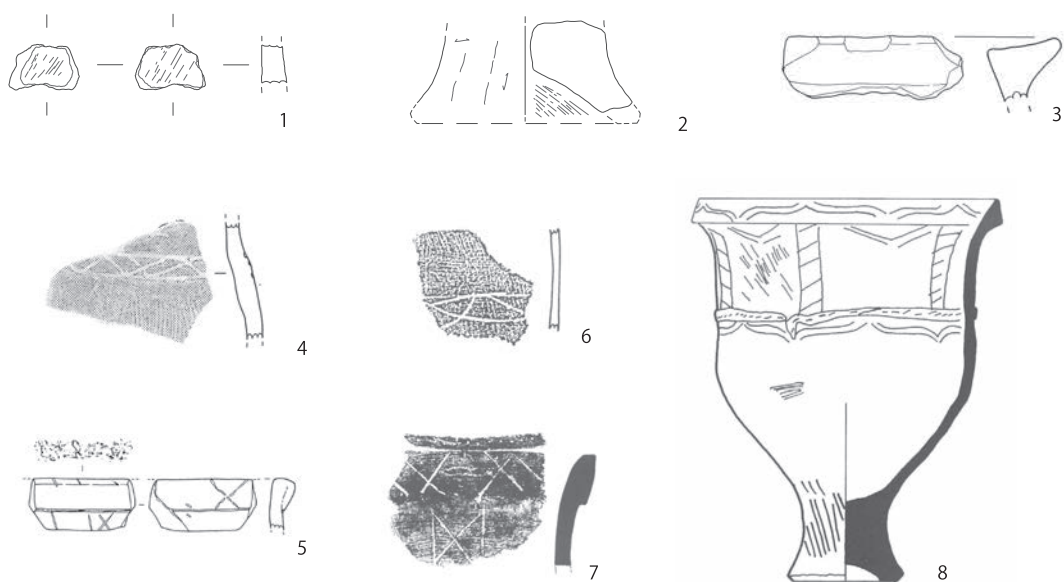
北原貝塚：久米島町具志川字北原の久米島空港周辺一帯に所在する遺跡で、昭和48年度に沖縄県教育委員会により調査が行われている（沖縄県教育委員会1992）。在地土器は無文尖底からくびれ平底土器の過渡的段階（大当原式～アカジャンガー式）で、遺構内において尖底とくびれ平底・平底が共伴しており、有文資料が少なく型式判断は難しいものの主体はアカジャンガー式とみられる。有文資料には貝符類似文様が認められる。当該調査では広田上層タイプ貝符や開元通寶が得られている。

当該貝塚出土資料に上能野式に類似する土器および模倣土器が認められる。

図2-4は、甕形とみられる胴部片で、上能野式に類似する資料である。外面の並行沈線内に弧状・V字の沈線を一部重複させながら単位事に施すもので、大隅諸島の在地土器文様「相交弧文（新里1999）」に類似する。類例は馬毛島椎ノ木遺跡出土資料（図2-6）にみられる（熊本大学文学部考古学研究室1980）。外面下部には、刷毛目状の調整痕が見られる。内面は指おさえによる指頭痕が残る。多量の雲母を含む胎土の特徴から搬入土器と考えられる。このような文様は奄美・沖縄の在地土器にみられないもので、兼久式・アカジャンガー式では基本的に鋸歯状あるいは波状の文様を横位で連続的あるいは一筆書的に施文することが多い。当該資料と椎ノ木遺跡出土資料はどちらも破片資料で文様モチーフ全体を窺えるものではないが、単位毎に施すか、連続的に施すかという文様意匠の観点からも、奄美・沖縄在地土器の文様と区別は出来るものといえ、大隅諸島産の可能性を指摘できる。

当該資料は、遺構内一括資料として、尖底・くびれ平底土器と共伴しているとされるが、調査報告書が刊行されていないことから、出土状況の詳細については不明であるものの、概ね大当原式～アカジャンガー式の過渡期段階に位置づけられよう。また、椎ノ木遺跡出土資料は、上能野式の古段階に位置づけられており（石堂2015・2019・本書石堂論文）、今後大隅諸島と沖縄諸島の並行関係を探る検討資料の一つとなり得る。

図2-5も、甕形土器の口縁部片で上能野式の文様モチーフに類似する資料である。口縁部外面に粘土帯を貼り付け肥厚させ、外面肥厚部下に横位沈線、その下に縦位の平行沈線文+「X」字状文様を施す。内面も横位沈線と「X」字状文様を施す。口唇部には刻目が施される。口縁肥厚部外面にも斜沈線のような痕跡がみられるが判然としない。胎土は、灰色の泥質で沖縄在地土器である。



1・2：具志原貝塚、3：中川原貝塚、4・5：北原貝塚、6：馬毛島椎ノ木遺跡  
7：西之表市国上、8：上能野貝塚

0 5cm  
S=1/3 (8:1/5)

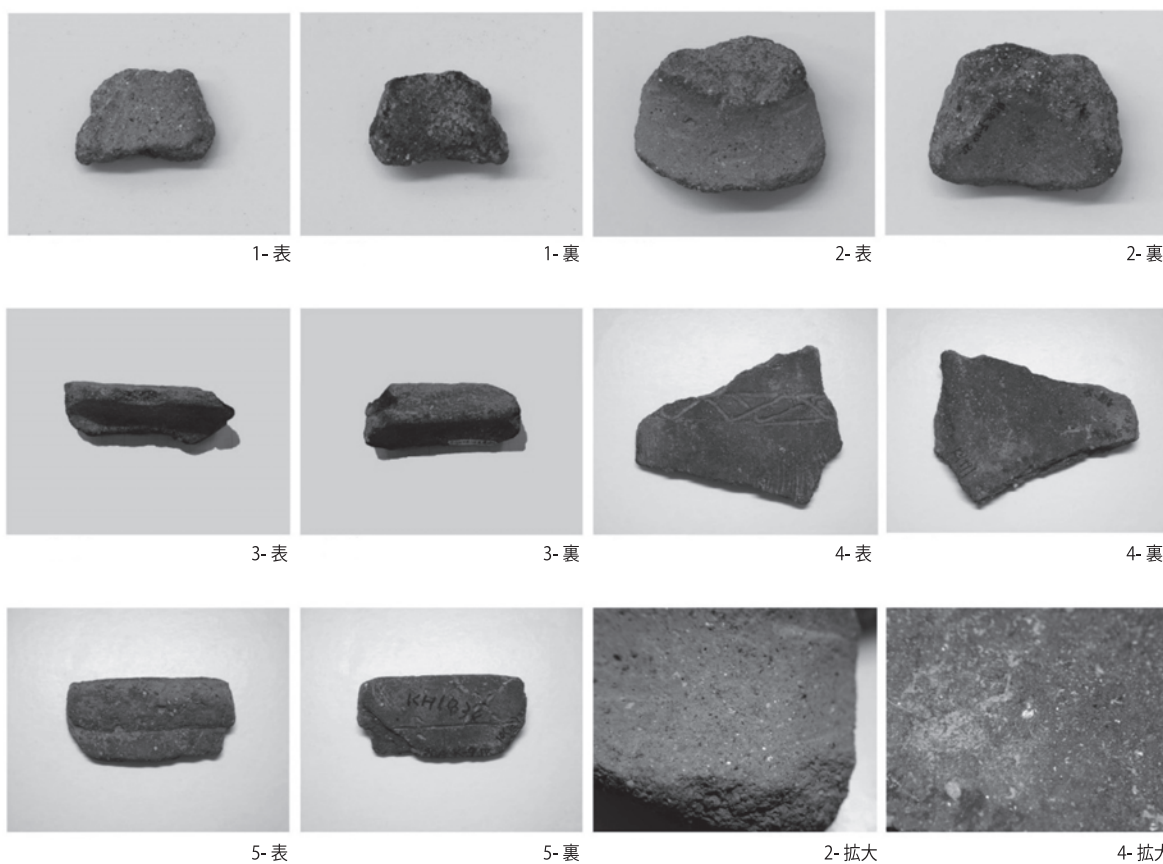


図2 南島における広田遺跡関連土器資料

上能野式は口縁部外面に粘土帯を貼付けし、断面三角形・あるいは方形状に肥厚させることが特徴であるが、当該資料の肥厚口縁部のつくりは沖縄在地的で上能野式のものとは異なる。一方で小片のため判然としないものの、上能野式の文様モチーフ（図2-7・8）に類似する（河口1973、旭1975）。上能野式の文様モチーフを模倣、あるいは影響を受けた沖縄在地土器と考えられる。

今回の調査では、少ないながらも大隅諸島系土器に類似する資料を見出すことができた。北原貝塚の上能野式類似・模倣土器は、上能野式土器文化圏との直接的あるいは間接的な接触・交流を類推させるものである。北原貝塚からは、広田上層タイプ貝符や開元通寶が出土していることも興味深い。

具志原貝塚出土資料は胎土の雰囲気が大隅諸島産のものに類似するものの、口縁部形態や文様属性といった型式学的観点から大隅諸島系土器に断定することは出来ない。また、中川原貝塚出土資料も大隅諸島の土器胎土への類縁性を感じるものの、南九州の土器様式に含まれることと大隅諸島・南九州大隅半島産ともに胎土に雲母が混入される特徴があるため、大隅諸島産と区別することは非常に難しい。これまでに南九州産として認識されている資料に大隅諸島産が含まれている可能性もあり今後の検討課題としたい。

九州本土や奄美群島から沖縄諸島への土器搬入状況と比較すると、大隅諸島から沖縄諸島への土器搬入量は僅少といった状況である。今後も資料調査の継続、資料蓄積に伴い大隅諸島系土器に類似する資料は追加していくものと思われる。肉眼観察による胎土・色調からの判断は、個人的な主観によってしまうため慎重な検討が必要であり、客観的な判断基準を設定することが求められる。胎土分析といった自然化学分析なども踏まえた検討が必要であろう。（具志堅）

### 3. 土器からみた3～7世紀の南島における種子島人の動向

鳥ノ峯～広田式期には、トカラ列島中之島まで確実に分布するが、この時期の九州島及び奄美群島では、大隅諸島系土器は認められず、沖縄諸島では、伊江島具志原貝塚で、この時期の大隅諸島系土器の可能性が高い資料が2点確認されているものの、中性子放射化分析では、大隅諸島系土器と現状では同一の胎土グループを形成していない。また、トカラ列島における大隅諸島系土器は搬入品で、主体となる土器は奄美系の土器とされる（新里2019）。

つづく、上能野式期の確実な例は大隅諸島に限定される。上能野式は、古・中・新の三段階に細分されるが、上能野式古段階の影響を受けた土器が沖縄諸島（久米島北原貝塚）で認められる。この時期の南島の土器様式は、沖縄諸島・奄美群島・大隅諸島で異なる上、排他的な様相を示しており（新里2009）、様式間の並行関係を捉えることが困難であった。本例は、両者に共通する文様モチーフを見出したものであり、南島における広田人の移動痕跡を示すだけでなく、広域編年を検討するうえでも重要なものといえよう。上能野式中段階以降の影響を受けたとみられる土器は、大隅半島志布志湾周辺（安良・上苑A・宮脇遺跡）、奄美群島（マツノト遺跡）で認められる。これらのうち、安良遺跡、北原貝塚例は、大隅諸島からの搬入品の可能性もある。

鳥ノ峯～広田式は、広田遺跡の下層埋葬とほぼ重なる時期の土器型式で、上能野式は、広田遺跡の上層埋葬とほぼ重なる時期の土器型式である。広田遺跡の下層・上層段階では、いずれの段階においても、奄美群島・沖縄諸島からは多量の南海産の大型巻貝、九州島からはガラス小玉等が大隅諸島に搬入され、両者に人的交流があったことは明らかである。一方で、土器の分布や密度、動態からは、3～7世紀の南島における種子島人の動向は低調にみえ、種子島と奄美群島の間に点在するトカラ列島の島々において、大隅諸島系土器は、少なくとも鳥ノ峯～広田式の時期は客体であり、その主体は奄美系の土器である。こうした土器様式の動態が示すものについて、今後、更に検討をしていきたい。（石堂）

## 文献

- 新里貴之 2009 「貝塚時代後期文化と弥生文化」『弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭』、pp.148-154、同成社
- 新里貴之 2017 「トカラ列島の弥生時代と平安時代－中之島地主神社敷地内発掘調査成果から－」『日本考古学協会第83回総会研究発表要旨』日本考古学協会 P178-179
- 相美伊久雄 2014 「南九州東端域における7～8世紀の土器様相－志布志湾北岸域の甕型土器を中心に－」『Archaeology from the south』II 新田栄治先生退職記念論集、pp.221-238
- 川口雅之 2019 「大隅諸島上能野式土器の年代及び兼久式土器成立の背景について」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』、pp.83-95、奄美考古学会
- 旭慶男 1975 「種子島における弥生式土器」『旭慶男君著作集』、pp.11-101、旭慶男君著作集刊行会
- 安座間充 2000 「琉球弧からみた弥生時代併行期の九州との交流様相－当該期搬入土器群および「弥生系土器」の再検証を中心に－」『地域文化論叢』第3号、pp.1-46、沖縄国際大学大学院地域文化研究科
- 安座間充 2019 「沖縄出土の兼久式土器・類似土器－付 アカジャンガー式土器出土遺跡集成－」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』、pp.111-121、奄美考古学会
- 沖縄県教育委員会 1985 『伊江島具志原貝塚の概要』沖縄県文化財調査報告書第61集
- 沖縄県教育委員会 1992 『新空港・空港拡張建設計画予定地内の遺跡－新石垣空港・久米島空港拡張建設計画予定地内の分布調査報告書－』沖縄県文化財調査報告書第106集
- 石堂和博 2014 「大隅諸島の先史文化にみられる生業の特徴と変遷」『琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集第2集、pp.159-170、六一書房
- 石堂和博 2015 「古墳時代後期並行期～奈良時代における九州本土と大隅諸島の交流～古墳時代後期並行期から奈良時代における大隅諸島の様相を中心に～」『平成27年度 第6回 奄美考古学会（種子島大会）研究発表資料』、奄美考古学会
- 石堂和博 2019 「古墳時代後期並行期から8世紀における大隅諸島と九州本土及び奄美、沖縄諸島との交流」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』、pp.99-110、奄美考古学会
- 木下尚子 1989 「南海産貝輪交易考」『生産と流通の考古学－横山浩一先生退官記念論文集－』、pp.203-249、横山浩一先生退官記念事業会
- 木下尚子 2019 「小湊フワガネク遺跡と広田遺跡－奄美大島の鉄器導入期の考察－」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』、pp.162-164、奄美考古学会
- 河口貞徳 1973 「上能野貝塚発掘概報」『鹿児島考古』第7号、pp.59-68、鹿児島考古学会
- 具志堅清大・石堂和博 2017 「伊江島具志原貝塚出土の甕形土器脚部資料について」『南島考古』第36号、pp.161-168、沖縄考古学会
- 熊本大学文学部考古学研究室 1980 『馬毛島埋葬址－西之表市椎ノ木遺跡－』研究室活動報告6
- 新里貴之 1999 「南西諸島における弥生並行期の土器」『人類史研究』第11号、pp.75-106、人類史研究会
- 新里貴之 2009 「貝塚時代後期文化と弥生文化」『弥生時代の考古学 1 弥生文化の輪郭』、pp.148-164、同成社
- 新里貴之 2012 「貝塚時代後期文化と古墳文化」『古墳時代の考古学 7 内外の交流と時代の潮流』、pp.146-158、同成社
- 新里貴之 2015 「南西諸島の土器と成川式土器」『成川式土器ってなんだ？－鹿大キャンパスの遺跡で出土する土器－』、pp.31-38、鹿児島大学総合研究博物館
- 友寄英一郎・高宮廣衛 1968 「伊江島具志原貝塚調査概報」『琉球大学法文学部紀要』社会篇第12号、pp.37-76、琉球大学法文学部

第 I 部

- 友寄英一郎 1970「沖縄出土の弥生土器」『琉球大学法文学部紀要社会篇』第14号、pp.47-55、琉球大学法文学部
- 仲宗根求・西銘章・宮城弘樹・安座間充 2001「読谷村出土の弥生土器・弥生系土器について」『読谷村歴史民俗資料館紀要』第25号、pp.59-79、読谷村歴史民俗資料館
- 中園聡 2000「沖縄諸島出土の九州系弥生土器－様式の同定と解釈－」『琉球・東アジアの人と文化』上巻 高宮廣衛先生古希記念論集、pp.111-130、高宮廣衛先生古希記念論集刊行会
- 中村直子 2013「ナガラ原東貝塚出土の成川式土器の位置づけ」『ナガラ原東貝塚の研究』、pp.259-268、熊本大学文学部
- 西之表市教育委員会 2019『内城址・上能野貝塚 西之表市埋蔵文化財発掘調査概報 市内遺跡発掘調査等事業に伴う発掘調査概報』
- 宮城弘樹 2000「貝塚時代後期土器の研究（Ⅱ）－後期遺跡の集成－」『南島考古』第19号、pp.45-62、沖縄考古学会

表2 3～8世紀の沖繩貝塚時代後期遺跡一覧

(凡例は表末に記す。)

No. 遺跡名	所在地	時期	在土器			在土器		備考	実見
			九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似文様		
1 宇佐浜B貝塚	国頭村字辺戸中畑	後期前半	弥生中期壺・壺、須玖式類似	-	-	浜屋原式主体、くびれ平底	-	貝付未製品	○
2 安田遺跡 (80)	国頭村字安田	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式?	-	-	△
安田遺跡 (87)	国頭村字安田	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	-	-	△
安田遺跡 (15)	国頭村字安田	後期前半～後期中頃	-	-	-	スセン常式類似	-	-	△
3 安波貝塚 (87)	国頭村字安波	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
安波貝塚 (15)	国頭村字安波	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式、アカジャンガー式	-	-	△
4 辺土名兼久遺物散布地	国頭村字辺土名	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
5 喜如嘉貝塚 (79)	大宜味村字喜如嘉	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式主体	○	-	△
喜如嘉貝塚 (94)	大宜味村字喜如嘉	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式主体	○	-	○
6 大兼久遺跡	大宜味村字大兼久	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
7 根路銘遺跡	大宜味村字根路銘	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
8 田名西貝塚北側地点	伊平屋村字田名	後期前半	-	-	-	浜屋原式主体、大当原式?	-	-	△
9 東原貝塚 (86)	伊平屋村字田名	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	ヤコウガイ札状製品	○
東原貝塚 (90)	伊平屋村字田名	後期中頃～後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	○
10 瀧川原貝塚	伊平屋村字我喜屋	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式、フェンサ下層式	-	-	○
11 伊是名貝塚B地点 (78)	伊是名村字伊是名	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	-	-	△
伊是名貝塚A地点 (84)	伊是名村字伊是名	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	-	△
12 アギギタラ貝塚 (78)	伊是名村アギギタラ岩山	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	-	-	△
13 具志川島遺跡群西地点	伊是名村具志川島	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式～アカジャンガー式	○※表探	-	△
14 具志原貝塚 (68)	伊江村字川平小字下原	後期前半～後期後半	山ノ口式、中期後半～後期初頭壺	-	-	浜屋原式～アカジャンガー式	-	広田上層タイプ貝付	△
具志原貝塚 (78)	伊江村字川平小字下原	後期前半～後期後半	-	-	-	大当原式、アカジャンガー式	-	-	△
具志原貝塚 (85)	伊江村字川平小字下原	後期前半～後期中頃	弥生中期壺、後期刻目突帯壺、後期後半～古墳初期壺、免田式	弥生後期～古墳時代	-	大当原式主体、アカジャンガー式	-	広田下層タイプ貝付、広田上層タイプ貝付、無文タイプ貝付、ガラス玉、鉄鉱石	○
具志原貝塚 (97)	伊江村字川平小字下原	後期前半～後期後半	入来Ⅱ式、山ノ口式	-	-	浜屋原式～アカジャンガー式	-	-	○
15 阿良貝塚 (83)	伊江村字東江前小字阿良	後期前半	山ノ口式	-	-	浜屋原式主体	-	-	○
阿良貝塚 (99)	伊江村字東江前小字阿良	後期前半	-	-	-	浜屋原式主体	-	-	○
16 浜崎貝塚	伊江村字東江前小字浜崎原	後期前半～後期中頃	-	-	-	大当原式主体	-	-	○
17 ナガラ原東貝塚 (99)	伊江村字川平小字ナガラ原	後期中頃～後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	-	-	○



No.	遺跡名	所在地	時期	畿内土器および模倣・類似土器			在出土器			貝付類似 文様	備考	実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	土器型式				
	ナガラ原東貝塚 (熊大調査)	伊江村字川平小字ナガラ原	後期中頃～後期後半	九州本土の型式 成川式	-	奄美群島の型式 スセシ管式類似、兼久式類似	土器型式 大当原式新～アカジャンガン式	大当原式新～アカジャンガン式	-	広田下層タイプ貝符、 広田上層タイプ貝符、 無文タイプ貝符、鉄 製品	○	
18	ナガラ原西貝塚	伊江村字川平小字ナガラ原	後期前半～後期中頃	-	-	スセシ管式類似、兼久式類似	大当原式主体	-	-	無文タイプ貝符	○	
19	ナガラ原第三貝塚	伊江村字川平小字ナガラ原	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式	-	-	-	○	
20	カヤ原遺跡 A 地点	伊江村字川平小字カヤ原	後期中頃～後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガン式主体	-	-	広田上層タイプ貝符	○	
21	運天貝塚	今帰仁村運天	後期後半	-	-	-	アカジャンガン式	-	-	-	△	
22	渡喜仁浜原貝塚	今帰仁村字渡喜仁	後期後半	弥生系	-	-	アカジャンガン式主体、フェ ンサ下層式	-	-	-	△	
23	仲尾次貝塚	今帰仁村字仲尾次	後期前半	弥生系	-	-	尖底土器	-	-	-	△	
24	具志堅貝塚	本部町字具志堅片蒲原	後期前半	入来式、山ノ口式、黒髪 式、弥生系	-	-	浜屋原式主体、大当原式	-	-	-	△	
25	備瀬貝塚	本部町字備瀬	後期前半～後期後半	入来式	-	-	大当原式～アカジャンガン式	-	-	-	△	
26	アノチの上貝塚 (05)	本部町字瀬底安地原	後期前半～後期中頃	刻目突帯文藝、入来式	-	弥生系	阿波連浦下層式～アカジャン ガン式	-	-	-	△	
	アノチの上貝塚 (09)	本部町字瀬底安地原	後期前半～後期中頃	黒髪式、弥生系	-	-	阿波連浦下層式～大当原式	-	-	-	△	
27	兼久原貝塚	本部町字崎本部兼久原	後期中頃～後期後半	-	-	-	アカジャンガン式主体、大当 原式	-	-	広田上層タイプ貝符、 開元通寶	△	
28	具志堅新里洞穴遺跡	本部町字具志堅	後期後半	-	-	-	アカジャンガン式	-	-	-	△	
29	済井出長佐久貝塚	名護市字済井出	後期後半	-	-	-	アカジャンガン式、尖底土 器?	-	-	-	△	
30	大堂原遺跡	名護市字済井出	後期前半～後期中頃	板付式蓋、山ノ口式蓋、 入来 I・II 式蓋、甕棺	-	弥生系、スセシ管式、 兼久式類似	大当原式主体、阿波連浦下層 式、浜屋原式	○	-	広田下層タイプ貝符、 イモガイ円盤状製品	○	
31	屋部前田原貝塚	名護市字屋部小字前田原	後期前半～後期後半	入来式、弥生系	-	-	阿波連浦下層式～大当原式、 フェンサ下層式	-	-	-	△	
32	名護貝塚 (県 85)	名護市名護大兼久原	後期後半	-	-	-	アカジャンガン式	-	-	-	△	
	名護貝塚 (市 85)	名護市名護大兼久原	後期後半	-	-	-	アカジャンガン式	-	-	-	△	
33	溝原貝塚 (89)	名護市東江	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式～アカジャンガン式	-	-	-	△	
	溝原貝塚 (15)	名護市東江	後期前半～後期後半	-	-	-	浜屋原式～アカジャンガン式	-	-	-	△	
34	部瀬名貝塚 (96)	名護市字喜瀬部瀬名原	後期前半	入来 II 式、山ノ口式	-	-	浜屋原式	-	-	-	△	
	部瀬名貝塚 (01)	名護市字喜瀬部瀬名原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	-	△	
35	久志貝塚	名護市久志	後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガン式、フェンサ 下層式	○	-	-	△	
36	前原遺跡	宜野座村字松田小字前原	後期前半	弥生系	-	-	浜屋原式～大当原式	-	-	-	△	

No.	遺跡名	所在地	時期	畿入土器および模倣・類似土器			在出土器			実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似 文様	備考	
37	前原貝塚	宜野座村字松田小字前原	後期前半～後半	弥生中期壺、免田式	-	弥生系・スセシヤンガース式、兼久式類似	スセシヤンガース式、大当原式	○	-	○
38	漢那ウエーヌアスアタイ遺跡	宜野座市字漢那	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
39	西先謝原遺物散布地	金武町字金武西先謝原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
40	飛留喜原B遺跡	金武町字並里飛留喜田原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
41	伊武部貝塚	恩納村字名嘉真	後期前半	-	-	-	大当原式	-	-	-
42	熱田貝塚 (69)	恩納村字安富祖	後期後半	-	-	-	アカジャンガース式、フェンサ下層式	-	-	△
	熱田貝塚 (79)	恩納村字安富祖	後期後半	-	-	-	アカジャンガース式主体	○	開元通寶	△
43	久良波貝塚 (92)	恩納村字久良波	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式、アカジャンガース式、フェンサ下層式	-	-	△
	久良波貝塚 (94)	恩納村字久良波	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
44	塩屋貝塚	恩納村字真栄田塩屋	後期前半	-	-	-	浜屋原式	-	-	△
45	昆布貝塚	うるま市具志川字昆布	後期前半	-	弥生中期壺	-	大当原式	-	-	○
46	宇堅貝塚 (80)	うるま市具志川字宇堅小字岩地原	後期前半	弥生中期壺、免田式	-	-	浜屋原式主体、大当原式	-	-	○
47	アカジャンガース貝塚 (60)	うるま市具志川小字具志川	後期後半	-	-	-	アカジャンガース式主体	-	-	△
	アカジャンガース貝塚 (80)	うるま市具志川小字具志川	後期中頃～後期後半	-	-	スセシヤンガース式類似	大当原式、アカジャンガース式	-	-	△
	アカジャンガース貝塚 (04)	うるま市具志川小字具志川	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	-	△
48	前原遺跡	うるま市具志川小字田場	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
49	具志川グスク	うるま市具志川	後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガース式～フェンサ下層式	○	-	△
50	具志川グスク崖下	うるま市具志川	後期中頃～後期後半	松木藪式壺、中津野式壺	-	-	大当原式、アカジャンガース式	-	-	○
51	喜屋武グスク	うるま市具志川字仲嶺	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体、アカジャンガース式？	-	-	△
52	平敷屋トウハバル遺跡 (96)	うるま市勝連字平敷屋小字板武座	後期前半～後半	成川式	-	スセシヤンガース式類似	大当原式主体、阿波連浦下層式～フェンサ下層式	○	-	○
	平敷屋トウハバル遺跡 (04)	うるま市勝連字平敷屋小字板武座	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式、アカジャンガース式	-	-	△
	平敷屋トウハバル遺跡 (14)	うるま市勝連字平敷屋小字板武座	後期後半	-	-	-	アカジャンガース式	-	-	△
53	津堅貝塚 (61)	うるま市勝連字津堅	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	-	△
	津堅貝塚 (03)	うるま市勝連字津堅	後期中頃	-	-	-	大当原式	-	-	△
	津堅貝塚 (04)	うるま市勝連字津堅	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式、アカジャンガース式	-	-	△

No.	遺跡名	所在地	時期	畿入土器および模倣・類似土器			在出土器		実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似 文様	
	津堅貝塚 (05)	うるま市勝連字津堅	後期中頃～後期後半	-	-	兼久式類似	大当原式、アカジャンガー式	-	△
54	津堅第二貝塚	うるま市勝連字津堅	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式～アカジャンガー式	-	△
55	浜貝塚	うるま市勝連字浜	後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガー式	-	△
56	勝連城跡 (65)	うるま市勝連南風原	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	開元通寶	△
	勝連城跡四の曲輪北区	うるま市勝連南風原	後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガー式主体	無文タイプ貝符、開元通寶	△
	勝連城跡四の曲輪西・東区	うるま市勝連南風原	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式、フエンサ下層式	開元通寶	△
57	勝連城南貝塚 (66)	うるま市勝連南風原	後期後半	-	-	兼久式類似	アカジャンガー式、尖底土器	-	△
	勝連城南貝塚 (84)	うるま市勝連南風原	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	広田上層タイプ貝符	△
58	桃原貝塚	うるま市与那城字桃原	後期前半?後期中頃	-	-	-	大当原式主体、アカジャンガー式	-	△
59	池原上田原・仕明原遺跡	沖縄市字池原	後期前半	-	-	-	大当原式	-	△
60	室川貝塚	沖縄市字室川	後期後半	弥生前期～中期土器	-	弥生系	フエンサ下層式	-	△
61	浜屋原貝塚 (77)	読谷村字屋座小字浜屋原	後期前半	-	-	スセシキ式類似	浜屋原式主体、大当原式	-	△
	浜屋原貝塚 B 地点 (06)	読谷村字屋座小字浜屋原	後期前半	-	-	-	大当原式主体	漢式三翼鏡	△
	浜屋原貝塚 B 地点 (13)	読谷村字屋座小字浜屋原	後期前半	-	-	-	浜屋原式、大当原式	-	△
62	大当原貝塚	読谷村字波平小字大当原	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	○
63	中川原貝塚 (A 地点)	読谷村字波平小字中川原	後期前半～後期後半	前期末～中葉頃壺・甕	-	弥生中期模倣甕	浜屋原式、アカジャンガー式	-	○
	中川原貝塚 (B 地点)	読谷村字波平小字中川原	後期前半	入来 I・II 式、黒髪式	-	入来 I 式模倣	-	-	○
64	大久保原遺跡	読谷村字波平小字大久保原	後期前半	山ノ口式、入来 II 式、入来 I 式、松木園式	-	-	-	-	○
65	高知口原貝塚	読谷村字高知口原	後期前半	入来 I 式、松木園式	-	-	-	-	○
66	吹出原遺跡	読谷村字長浜吹出原	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式	-	△
67	連道原遺跡	読谷村字高志保連道原	後期中頃～後期後半	-	-	兼久式類似	尖底土器、アカジャンガー式	-	△
68	木綿原遺跡	読谷村字渡具知木綿原	後期前半	弥生中期壺	-	-	浜屋原式主体、大当原式	-	△
69	伊礼原遺跡 (低湿地区)	北谷町字伊礼平小字伊礼原	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式～フエンサ下層式	-	△
	伊礼原遺跡 (砂丘区)	北谷町字伊礼平小字伊礼原	後期前半	突帯文壺、弥生系	-	-	阿波連浦下層式～大当原式	札状製品、諸岡型貝輪、翡翠、イモガイ 円盤状製品	△
70	伊礼原 A 遺跡	北谷町字伊礼平小字伊礼原	後期前半～後半	弥生中期壺、須玖式甕	-	スセシキ式類似	阿波連浦下層式～大当原式、くびれ平底	無文タイプ貝符	○
71	伊礼原 B 遺跡	北谷町字伊礼平小字伊礼原	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	△
72	伊礼原 D 遺跡 (08)	北谷町字伊礼平小字伊礼原	後期前半～後半	弥生系	-	弥生系	浜屋原式、大当原式、アカジャンガー式	広田上層タイプ貝符	△

No.	遺跡名	所在地	時期	畿内土器および模倣・類似土器			在出土器			実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似文様	備考	
	伊礼原D遺跡(13)	北谷町字伊礼原	後期前半～後半	弥生系、土師器?	-	弥生系、スセシオン常式・模倣土器	浜屋原式～大当原式、くびれ平底	-	未製品	○
	伊礼原D遺跡(17)	北谷町字伊礼原	後期前半～後半	弥生系、胴部片	-	兼久式類似	阿波連浦下層式～フェンサ下層式	○	無文タイプ貝符、開元通寶	△
73	伊礼原E遺跡	北谷町字伊礼原	後期前半	弥生中期壺	-	スセシオン常式	浜屋原式、大当原式	-	貝符未製品、イモガイ円盤状製品	△
74	平安山原B遺跡(08)	北谷町字伊礼原	後期前半	弥生中期壺	-	-	浜屋原式、大当原式	-	-	△
	平安山原B遺跡(15)	北谷町字伊礼原	後期前半～後半	入来I・II式壺・中期甕	-	弥生系	浜屋原式主体、阿波連浦下層式、大当原式、くびれ平底	-	-	○
75	平安山原BC遺跡	北谷町字伊礼原	後期前半～後半	弥生壺口縁部	-	スセシオン常式類似、兼久式類似	大当原式主体、浜屋原式、アカジャンガー式	-	広田下層タイプ貝符、無文貝符、貝符未成	○
76	小堀原遺跡(09)	北谷町字桑江小字小堀原	後期前半	後期壺口縁部、免田式類似	-	-	浜屋原式～大当原式、くびれ平底、表裏面有文	-	-	○
	小堀原遺跡(12)	北谷町字桑江小字小堀原	後期前半～後半	入来式底部脚台	-	スセシオン常式類似	浜屋原式～大当原式主体、くびれ平底、布目疵土器	-	-	○
77	北谷城	北谷町字大村小字城原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
78	玉代勢原遺跡	北谷町字大村小字玉代勢原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
79	新城下原第二遺跡	宜野湾市字安仁屋小字前原	後期前半	前期刻目突帯、入来式	-	-	阿波連浦下層式～大当原式	-	-	○
80	大山水賀志原遺跡	宜野湾市大山水賀志原	後期前半～後半	-	-	-	尖底～くびれ平底	-	-	△
81	真志喜安座間原第一遺跡	宜野湾市字真志喜安座間原	後期前半	弥生系	-	-	浜屋原式、大当原式	-	-	-
82	真志喜安座間原第二遺跡	宜野湾市字真志喜安座間原	後期前半	-	-	-	大当原式	-	広田上層タイプ貝符	-
83	真志喜グスクスハナ東遺跡	宜野湾市字真志喜	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体、アカジャンガー式?	-	-	△
84	宇地泊兼久原遺跡	宜野湾市字宇地泊	後期前半	弥生系	-	-	阿波連浦下層式～浜屋原式	-	-	△
85	チヂフチャー洞穴遺跡	浦添市字牧港	後期前半	-	-	-	大当原式	-	-	△
86	牧港貝塚	浦添市字牧港	後期前半	弥生系	-	-	大当原式主体	-	貝符未成、砂鉄	○
87	第二下港川遺跡	浦添市字港川港川原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	○
88	嘉門貝塚A区	浦添市字城間小字嘉門	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	貝符未成、イモガイ円盤状製品	○
89	嘉門貝塚B区	浦添市字城間小字嘉門	後期前半	刻目突帯文壺、入来式壺	弥生中期模倣壺(奄美的胎土)、弥生中期甕(未掲載資料)?	阿波連浦下層式(奄美体、大当原式)	阿波連浦下層式～浜屋原式主体、大当原式	-	イモガイ円盤状製品	○
90	城間古墓群	浦添市字城間	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	-	△
91	安謝東原遺跡	那覇市字安謝小字東原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
92	安謝東原南遺跡	那覇市字安謝小字東原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	△
93	崎廻川貝塚B	那覇市字天久廻川原	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式	-	-	△

No.	遺跡名	所在地	時期	畿内土器および模倣・類似土器			在出土器		備考	実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似 文様		
94	鏡水菟飼原 A 遺跡	那覇市鏡水	後期前半、後期後半	-	-	-	浜屋原式、くびれ平底	-	○	
95	那覇原遺跡	那覇市字安次嶺	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体、アカ ジャンガー式	-	△	
96	ガジャンピラ丘陵遺跡 (83)	那覇市字小椋	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
	ガジャンピラ丘陵遺跡 (97)	那覇市字小椋	後期前半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
97	大嶺村跡 (12)	那覇市字大嶺	後期前半?	-	-	-	浜屋原式、大当原式	-	-	
	大嶺村跡 (19)	那覇市字大嶺	後期前半、後半	-	-	-	浜屋原式、フェンサ下層式?	-	○	
98	伊良波東遺跡	豊見城市字伊良波先祖原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
99	与那城貝塚	西原町字小波津	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
100	我謝遺跡	西原町字我謝	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	開元通寶	△	
101	シマシヤーマ貝塚	南城市知念字久高	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	△	
102	垣花遺跡	南城市玉城字垣花	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
103	新原貝塚	南城市玉城字百名	後期中頃～後期後半	-	-	-	大当原式新～アカジャンガー 式主体	○	△	
104	米須貝塚	糸満市字米須東当原	後期中頃～後期後半	-	-	兼久式類似	大当原式新、アカジャンガー 式主体	○	△	
105	米須第 2 貝塚	糸満市字米須東当原	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	△	
106	大度貝塚 (98)	糸満市字大度当原	後期前半	-	-	-	大当原式古段階主体	-	△	
	大度貝塚 (03)	糸満市字大度当原	後期前半	-	-	弥生系	浜屋原式主体	-	△	
107	真栄里貝塚 (67 調査)	糸満市字真栄里	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	△	
	真栄里貝塚 (96)	糸満市字真栄里	後期後半	-	-	-	アカジャンガー式、フェンサ 下層式主体	-	△	
108	真栄里兼久原遺跡	糸満市字真栄里小字兼久原	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	△	
109	川田原貝塚	糸満市字真栄里	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	△	
110	フェンサ城貝塚 (69)	糸満市字名城小字名城原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体、布目痕 土器	-	△	
	フェンサ城貝塚 (18)	糸満市字名城小字名城原	後期前半、後半	-	-	-	フェンサ下層式主体、大当原 式	-	△	
111	渡嘉志久貝塚 (85)	渡嘉敷村字渡嘉志久	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	△	
	渡嘉志久貝塚 (16)	渡嘉敷村字渡嘉志久	後期前半	-	-	-	大当原式、くびれ平底	-	○	
112	阿波連浦貝塚 (99)	渡嘉敷村字阿波連	後期前半	-	-	-	阿波連浦下層式→浜屋原式新 段階	-	△	
	阿波連浦貝塚 (16)	渡嘉敷村字阿波連	後期前半	-	-	-	阿波連浦下層式～大当原式	-	○	
113	船越原遺跡 (16)	渡嘉敷村字船越原	後期前半	-	-	-	浜屋原式	-	○	
114	大和馬遺物散布地	座間味村字阿佐	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	○	

No.	遺跡名	所在地	時期	畿内土器および模倣・類似土器			在土土器			実見
				九州本土の型式	大隅諸島の型式	奄美群島の型式	土器型式	貝付類似 文様	備考	
115	阿嘉貝塚	座間味村阿嘉	後期前半	-	-	-	浜屋原式、大当原式	-	-	○
116	ウフタタ遺物散布地	座間味村安室島	後期前半	-	-	-	大当原式	-	-	○
117	松尾原洞穴遺跡	栗国村字西	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	-	△
118	浜崎原遺跡	栗国村字浜	後期後半	-	-	奄美系?	フェンサ下層式	-	-	△
119	大道原遺跡	渡名喜村字大道原	後期前半	-	-	-	大当原式主体	-	-	○
120	西底原遺跡	渡名喜村字西底原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式主体	-	-	○
121	北原貝塚 (73 調査)	久米島町具志川字北原	後期中頃～後半	-	上能野式類似	兼久式類似	大当原式～アカジャンガー式 主体	○	広田上層タイプ貝符、 開元通寶	○
	北原貝塚 (95)	久米島町具志川字北原	後期中頃～後半	-	-	-	浜屋原式・大当原式主体、ア カジャンガー式	-	-	○
122	大原第二貝塚 B 地点	久米島町具志川字大原	後期前半	入来～山ノ口式壺	-	-	浜屋原式主体	-	五銖銭	-
	大原第二貝塚 C 地点 (80)	久米島町具志川字大原	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式	-	-	△
	大原第二貝塚 C 地点 (00)	久米島町具志川字大原	後期中頃～後半	-	-	-	大当原式～アカジャンガー式	-	-	△
123	下地原貝塚	久米島町具志川字下地原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層式	-	開元通寶	△
124	バケーマシ遺跡	久米島町具志川字ハンタ原	後期後半	-	-	-	フェンサ下層段階?	-	-	△
125	清水貝塚	久米島町具志川字島清水原	後期前半～中頃	-	-	-	スセム式類似、兼久 式類似	○	広田下層タイプ貝 符・広田上層タイプ 貝符	○
126	泊貝塚 (75)	久米島町仲里字泊	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式か	-	-	△
	泊貝塚 (96)	久米島町仲里字泊	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式か	-	-	△
127	謝名堂貝塚 (64)	久米島町仲里字謝名堂	後期前半～後半	-	-	-	尖底・くびれ平底、アカジャ ンガー式	-	-	△
	謝名堂貝塚 (75)	久米島町仲里字謝名堂	後期前半～後半	-	-	-	尖底・くびれ平底	-	-	△
	謝名堂貝塚 (96)	久米島町仲里字謝名堂	後期前半	-	-	-	浜屋原式～大当原式か	-	-	△
128	銭田貝塚	久米島町仲里字銭田西銭田原	後期後半	-	-	-	くびれ平底	-	開元通寶	△

・時期区分は沖縄貝塚時代後期の中で、尖底土器段階を後期前半、平底土器段階を後期後半とし、尖底～平底過渡期段階を中頃とした。  
 ・「実見」の中で、「○」は実見したもの、「△」は実見していないが報告書中に図・写真が掲載されているもの、「-」は報告書記載によるもの  
 ・参考文献は遺跡番号に対応する。  
 ・本表は、以下の文献を参考に作成した。

宮城弘樹 2000 「貝塚時代後期土器の研究 (II) - 後期遺跡の集成 -」『南島考古』第 19 号、pp.45-62、沖縄考古学会  
 安座間充 2019 「沖縄出土土器・類似土器 - 付 アカジャンガー式土器出土遺跡集成 -」『中山清美と奄美学 - 中山清美氏追悼論集 -』、pp.111-121、奄美考古学会

## 参考文献

- 1 沖縄県教育委員会 1989 「宇佐浜遺跡発掘調査報告」沖縄県文化財調査報告書第 33 集
- 2 沖縄大学沖縄学生文化協会 1980 「郷土」第 18 号  
 国頭村教育委員会 1987 「国頭村の遺跡 - 詳細分布調査報告 -」国頭村文化財調査報告書第 2 集  
 国頭村教育委員会 2015 「村内遺跡詳細分布調査報告書 (I) - 平成 24～26 年度調査報告 -」国頭村文化財調査報告書第 4 集

- 3 国頭村教育委員会1987「国頭村の遺跡－詳細分布調査報告－」国頭村文化財調査報告書第2集
- 国頭村教育委員会2015「村内遺跡詳細分布調査報告書(1)－平成24～26年度調査報告－」国頭村文化財調査報告書第4集
- 4 国頭村教育委員会2019「村内遺跡詳細分布調査報告書(2)－平成26～28年度調査報告－」国頭村文化財調査報告書第5集
- 5 大宜味村教育委員会1979「喜如嘉貝塚発掘調査報告書」大宜味村文化財調査報告書 第1集
- 沖繩県教育委員会1994「喜如嘉貝塚－国道58号改修工事に係る緊急発掘調査報告－」沖繩県文化財調査報告書第114集
- 6 大宜味村教育委員会1984「大宜味村の遺跡 詳細分布調査報告書」大宜味村文化財調査報告書 第2集
- 7 No.6と同じ
- 8 伊平屋村教育委員会2000「伊平屋村の遺跡－村内遺跡詳細分布調査報告書－」伊平屋村文化財調査報告書第3集
- 9 伊平屋村教育委員会1986「東原貝塚ほか発掘調査報告(圃場整備事業に伴う発掘調査)」伊平屋村文化財調査報告書 第2集
- 伊平屋村教育委員会1990「伊平屋村・東原貝塚発掘調査報告書」伊平屋村文化財調査報告書第3集
- 10 伊平屋村教育委員会1986「東原貝塚ほか発掘調査報告(圃場整備事業に伴う発掘調査)」伊平屋村文化財調査報告書 第2集
- 11 沖繩大学沖繩学生文化協会1978「郷土」第16号
- 12 沖繩大学沖繩学生文化協会1978「郷土」第16号
- 13 伊是名村教育委員会1977「具志川島遺跡群 第一次発掘調査報告書」伊是名村文化財調査報告書 第1集
- 伊是名村教育委員会1978「具志川島遺跡群 第二次発掘調査報告書」伊是名村文化財調査報告書 第2集
- 伊是名村教育委員会1983「具志川島遺跡群」伊是名村文化財調査報告書 第9集
- 14 友寄英一郎1978「具志原貝塚のほなし」『伊江島具志原貝塚』琉球大学法文学部紀要 第12号、pp.37-76、琉球大学法文学部
- 沖繩県教育委員会1985「伊江島具志原貝塚の概要」沖繩県文化財調査報告書第62集
- 沖繩県教育委員会1997「伊江島具志原貝塚発掘調査報告」沖繩県文化財調査報告書第130集
- 15 沖繩県教育委員会1983「伊江島阿良貝塚発掘調査報告」沖繩県文化財調査報告書第48集
- 伊江村教育委員会1989「伊江島の遺跡 遺跡詳細分布調査報告」伊江村文化財調査報告書第13集
- 16 伊江村教育委員会1980「浜崎貝塚」伊江村文化財調査報告書第9集
- 17 伊江村教育委員会1999「伊江島の遺跡 遺跡詳細分布調査報告」伊江村文化財調査報告書第13集
- 木下尚子2013「ナガラ原東貝塚の研究 5世紀から7世紀前半の沖繩伊江島」熊本大学文学部
- 18 伊江村教育委員会1979「伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書」伊江村文化財調査報告書第8集
- 19 伊江村教育委員会2017「カヤ原遺跡A地点 ナガラ原東貝塚 ナガラ原第三貝塚－県営農地保全整備事業(川平第2地区)に係る埋蔵文化財発掘調査－」伊江村文化財調査報告書第14集
- 20 No.19と同じ
- 21 多和田真淳1975「今帰仁村の先史時代」『今帰仁村史』、pp.3-15、今帰仁村史編纂委員会
- 多和田真淳・知念勇1984「多和田真淳調査収集の考古資料(Ⅲ)」『沖繩県立博物館紀要』10
- 22 今帰仁村教育委員会1977「渡喜仁浜原貝塚調査報告書[1]」今帰仁村文化財調査報告書第1集
- 23 多和田真淳1975「今帰仁村の先史時代」『今帰仁村史』、pp.3-15、今帰仁村史編纂委員会
- 24 本部町教育委員会1986「具志堅貝塚 発掘調査報告」本部町文化財調査報告書第3集
- 25 本部町教育委員会1986「備瀬貝塚－下水道工事に伴う緊急発掘調査報告書－」本部町文化財調査報告書第4集
- 26 本部町教育委員会2005「瀬底島・アーンチの上貝塚 発掘調査報告書」本部町文化財調査報告書 第8集
- 27 本部町教育委員会2009「瀬底島・アーンチの上貝塚－個人住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書－」本部町文化財調査報告書 第9集
- 本部町教育委員会1977「兼久原貝塚発掘調査報告」本部町文化財調査報告書第1集
- 28 沖繩県立博物館1976「特別展 多和田真淳氏所蔵考古資料」
- 29 名護市教育委員会1982「名護市の遺跡(2) 分布調査報告」名護市文化財調査報告書－4
- 30 名護市教育委員会2005「大堂原貝塚－古宇利屋我地線建設に伴う緊急発掘調査報告書－」名護市文化財調査報告書第17集
- 31 名護市教育委員会2007「屋部前田原貝塚」名護市文化財調査報告書第18集
- 32 沖繩県教育委員会1985「名護貝塚－県道116号線側溝改修工事に伴う緊急発掘調査報告－」沖繩県文化財調査報告書第63集
- 名護市教育委員会1985「名護貝塚緊急発掘調査報告」名護市文化財調査報告－7
- 33 名護市教育委員会1989「溝原貝塚－名護博物館収蔵庫建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－」名護市文化財調査報告－9
- 名護市教育委員会2015「溝原貝塚2－市道山手線街路事業に伴う溝原貝塚緊急発掘調査－」名護市文化財調査報告－24

- 34 名護市教育委員会1996 『節瀬名貝塚－ブセナリゾーン開発に伴う緊急発掘調査報告書－』  
 名護市教育委員会2001 『節瀬名貝塚－国道58号・部瀬名線道路線形改良事業に伴う緊急発掘調査報告書－』 名護市文化財調査報告書-14
- 35 名護市教育委員会1980 『久志貝塚緊急発掘調査概報』 名護市文化財調査報告書-2
- 36 宜野座村教育委員会1999 『前原遺跡－県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書－』 宜野座村乃文化財14集
- 37 宜野座村教育委員会2005 『前原貝塚－村道サ－原線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』 宜野座村乃文化財17集
- 38 宜野座村教育委員会1990 『漢那ウエヌアタイ遺跡－近隣緑地口線建設に伴う発掘調査報告書－』 宜野座村乃文化財9集
- 39 金武町教育委員会2010 『町内埋蔵文化財予備調査報告書 篠首川周辺（平成18～20年度）』 金武町の歴史と文化 第4集
- 40 上原静ほか2011 『金武町池原遺跡発掘調査概報』 『沖国大考古』 第15号、pp.24-85、沖縄国際大学考古学研究室
- 41 高宮廣衛ほか1995 『恩納村伊武部貝塚』 『沖国大考古』 第11号、pp.127-142、沖縄国際大学考古学研究室
- 42 高宮廣衛1969 『恩納村熱田貝塚調査概報』 『沖大論叢』 第九巻第一号、pp.323-365、沖縄大学
- 43 沖縄県教育委員会1992 『久良波貝塚－県道58号線拡幅工事に伴う緊急発掘調査－』 沖縄県文化財調査報告書 第23集
- 44 多和田真淳・知念勇1984 『多和田真淳調査収集の考古資料（Ⅲ）』 『沖縄県立博物館紀要』 10
- 45 高宮廣衛1990 『昆布貝塚表採の粗隆文土器』 『九州上代文化論集』 乙益重隆先生古稀記念論文集、pp.117-138、乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会
- 46 具志川市教育委員会1980 『宇堅貝塚群・アカジャンガン遺跡調査報告』
- 47 高宮廣衛1960 『具志川村アカジャンガン遺跡調査概要』 『一九六〇年度文化財要覧』、pp.209-236、琉球政府文化財保護委員会
- 48 上原静2004 『沖国大考古』 第13号 具志川市アカジャンガン貝塚発掘調査概報、沖縄国際大学考古学研究室
- 49 具志川市教育委員会1987 『前原遺跡－石灰岩採掘に伴う緊急発掘調査報告－』
- 50 うるま市教育委員会2006 『具志川グスクⅠ－発掘調査報告概報－』 うるま市文化財調査報告書第4集
- 51 土肥直美2008 『具志川グスク崖下地区の発掘調査』
- 52 具志川市教育委員会1988 『喜屋武グスク－公園計画に係る遺跡詳細範囲確認調査概報－』
- 53 沖縄県教育委員会1996 『平敷屋トウハル遺跡－ホワイトビーチ地区内倉庫建設工事に伴う緊急発掘調査報告書－』 沖縄県文化財調査報告書第125集
- 54 勝連町教育委員会2004 『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成13・14年度』 勝連の文化財第22集
- 55 うるま市教育委員会2014 『平敷屋トウハル遺跡－ホワイトビーチ地区燃料施設建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』 うるま市文化財調査報告書第22集
- 56 高元政秀1961 『津堅貝塚発掘概報』 『一九六一年度文化財要覧』、pp.315-331、琉球政府文化財保護委員会
- 57 勝連町教育委員会2001 『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成11・12年度』 勝連の文化財第21集
- 58 勝連町教育委員会2004 『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成13・14年度』 勝連の文化財第22集
- 59 勝連町教育委員会2005 『津堅貝塚－中城港湾（アギ港湾）港湾改修事業に伴う緊急発掘調査報告書－』 勝連町の文化財第23集
- 60 金武正紀ほか1974 『津堅第二貝塚緊急発掘調査報告』 『昭和49年度文化財要覧』、pp.49-74、沖縄県教育委員会
- 61 勝連町教育委員会2001 『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成11・12年度』 勝連の文化財第21集
- 62 多和田真淳ほか1965 『勝連城跡第一発掘調査報告書』 『琉球文化財調査報告書』、pp.1-87、琉球政府文化財保護委員会
- 63 うるま市教育委員会2011 『勝連城跡－四の曲輪北区発掘調査報告書－』 うるま市文化財調査報告書第14集
- 64 うるま市教育委員会2014 『勝連城跡－四の曲輪西区および東区発掘調査報告書－』 うるま市文化財調査報告書第23集
- 65 高宮廣衛ほか1966 『勝連城跡第二発掘調査報告書』 『琉球文化財調査報告書』、pp.1-131、琉球政府文化財保護委員会
- 66 うるま市教育委員会2013 『桃原貝塚－市道サ那城26号線道路整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』 うるま市文化財調査報告書第18集
- 67 沖縄市教育委員会2008 『屋取集落に生さるる池原上田原・仕明原遺跡発掘調査報告書－』 沖縄市文化財調査報告書 第34集
- 68 沖縄市教育委員会1997 『室川貝塚－沖縄市総合庁舎建設に伴う崖下地区記録保存発掘調査の報告書－』 沖縄市文化財調査報告書 第20集
- 69 沖縄国際大学考古学研究室1977 『高嶺の考古』 創刊号
- 70 仲宗根求・小原裕也2006 『平成17年度浜屋原貝塚B地点発掘調査の概報』 『説谷村歴史民俗資料館紀要』 第30号、pp.53-65、説谷村歴史民俗資料館
- 71 説谷村教育委員会2013 『説谷村埋蔵文化財発掘調査報告書 平成21年度～平成23年度村内遺跡発掘調査等』 説谷村文化財調査報告書 第14集
- 72 高宮廣衛ほか1983 『説谷村大当原貝塚発掘調査概報』 『説谷村歴史民俗資料館紀要』 第17号、pp.1-47、説谷村歴史民俗資料館
- 73 仲宗根求・西銘章・宮城弘樹・安座間充2001 『説谷村出土の弥生土器・弥生系土器について』 『説谷村立歴史民俗資料館紀要』 第25号、pp.59-79、説谷村歴史民俗資料館



- 64 No.63と同じ
- 65 No.63と同じ
- 66 読谷村教育委員会1990 『吹出原遺跡 個人住宅建築に伴う緊急発掘調査報告書』読谷村文化財調査報告書第9集
- 67 読谷村教育委員会1979 『読谷村の埋蔵文化財 遺跡分布調査報告書』読谷村文化財調査報告書第7集
- 68 読谷村教育委員会1978 『本郷原 沖繩県読谷村渡具知木綿原遺跡発掘調査報告書』読谷村文化財調査報告書第5集
- 69 北谷町教育委員会2007 『伊礼原遺跡(国指定外) 伊礼原 A 遺跡ほか発掘調査』北谷町文化財調査報告書第26集
- 70 北谷町教育委員会2014 『伊礼原遺跡(国指定外) 伊礼原 A 遺跡-桑江伊平土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書第36集
- 71 北谷町教育委員会1988 『伊礼原 B 遺跡-旧メロ・モスカラ一地区雨水排水施設工事に係る発掘調査』北谷町文化財調査報告書第8集
- 72 北谷町教育委員会2008 『伊礼原 D 遺跡-キャンパス桑江北側返還に伴う発掘調査報告書(平成10～13年度)』北谷町文化財調査報告書第28集
- 73 北谷町教育委員会2013 『伊礼原 D 遺跡-桑江伊平土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書(平成18、19年度)』北谷町文化財調査報告書第35集
- 74 北谷町教育委員会2017 『伊礼原 D 遺跡-桑江伊平土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書(平成18年度)』北谷町文化財調査報告書第41集
- 75 北谷町教育委員会2010 『伊礼原 E 遺跡-キャンパス桑江北側返還に伴う発掘調査報告書(平成16・17年度)』北谷町文化財調査報告書第31集
- 76 北谷町教育委員会2015 『平安山原 B 遺跡-キャンパス桑江北側返還に伴う発掘調査報告書(平成14・15年度)』北谷町文化財調査報告書第29集
- 77 北谷町教育委員会2016 『平安山原 B・C 遺跡』北谷町文化財調査報告書第40集
- 78 北谷町教育委員会2009 『小堀原遺跡-キャンパス桑江北側返還に伴う発掘調査報告書(平成11～13年度)』北谷町文化財調査報告書第30集
- 79 北谷町教育委員会2012 『小堀原遺跡-桑江伊平土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書(平成17～20年度)』北谷町文化財調査報告書第34集
- 80 北谷町教育委員会2010 『北谷城-伊礼原 B 遺跡ほか発掘調査報告書』北谷町文化財調査報告書第32集
- 81 北谷町教育委員会1993 『玉代勢原遺跡-キャンパス瑞慶覧建設工事に係る埋蔵文化財調査業務報告書』北谷町文化財調査報告書第13集
- 82 沖繩県立埋蔵文化財センター2006 『新城下原第二遺跡-キャンパス瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査』沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書 第35集
- 83 宜野湾市教育委員会1989 『土に埋もれた宜野湾』宜野湾市文化財調査報告書第10集
- 84 No.80と同じ
- 85 No.80と同じ
- 86 No.80と同じ
- 87 高宮廣衛ほか1989 『沖国大考古 10号 宜野湾市宇地泊兼久原遺跡発掘調査報告書』沖繩国際大学文学部考古学研究室
- 88 浦添市教育委員会1988 『チナフナー-河穴遺跡 範囲確認調査報告書』浦添市文化財調査報告書第12集
- 89 沖繩県教育委員会1985 『牧港貝塚-真久原遺跡-県道153号線バイパス工事に伴う発掘調査報告書』沖繩県文化財調査報告書第65集
- 90 浦添市教育委員会1980 『うらそえの文化財-遺跡分布調査報告』浦添市文化財調査報告書第1集
- 91 浦添市教育委員会1993 『竈門貝塚 B-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅳ』浦添市文化財調査報告書第21集
- 92 浦添市教育委員会1991 『竈門貝塚 A-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅱ』浦添市文化財調査報告書第19集
- 93 浦添市教育委員会1990 『城間古墓群-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書』浦添市文化財調査報告書
- 94 那覇市教育委員会1995 『安謝東原遺跡-那覇新都心土地地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅱ』那覇市文化財調査報告書第29集
- 95 那覇市教育委員会2000 『安謝東原遺跡 旧天久村古井戸遺跡-那覇新都心土地地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅶ』那覇市文化財調査報告書第45集
- 96 那覇市教育委員会2012 『那覇市内遺跡 V-崎樋川貝塚 B-』那覇市文化財調査報告書第94集
- 97 沖繩県立埋蔵文化財センター2011 『鏡水窪隅原 A 遺跡-那覇西道路建設に伴う発掘調査報告書』沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書第57集
- 98 那覇市教育委員会1996 『那覇原遺跡-那覇空港ターミナル用造成工事に伴う緊急発掘調査報告』那覇市文化財調査報告書第30集
- 99 那覇市教育委員会1983 『ガジャンピラ丘陵遺跡-ガジャンピラ丘陵遺跡発掘調査報告書』那覇市文化財調査報告書第7集
- 100 那覇市教育委員会1997 『ガジャンピラ丘陵遺跡-小椋金城土地地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告』那覇市文化財調査報告書第36集
- 101 那覇市教育委員会2012 『大嶺村跡-那覇空港消防車庫新築工事に伴う緊急発掘調査報告』那覇市文化財調査報告書第89集
- 102 沖繩県立埋蔵文化財センター2019 『大嶺村跡-那覇空港事務所管轄庁舎新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書第101集
- 103 豊見城市教育委員会1987 『伊良波東遺跡-伊良波小・中学校建設工事に伴う緊急発掘調査報告』豊見城市文化財調査報告書第2集
- 104 西原町教育委員会1980 『与那城貝塚』西原町文化財調査報告書第2集
- 105 西原町教育委員会1983 『我敷遺跡-分譲宅地造成に係る緊急発掘調査』西原町文化財調査報告書第5集
- 106 新垣孫一・川平朝申・国分直一1957 『久高島シマシマ貝塚の調査概報』『一九五七年度文化財要覧』、pp.74-91、琉球政府文化財保護委員会
- 107 南城市教育委員会2008 『垣花遺跡-個人住宅建築にかかると緊急発掘調査報告』沖繩県南城市文化財調査報告書 第3集

- 103 南城市教育委員会2011『市内遺跡発掘調査報告書－新原貝塚・知名グスク－』南城市文化財調査報告書第10集
- 104 糸満市教育委員会1985『米須貝塚－範圍確認調査報告書－』糸満市文化財調査報告書第5集
- 105 糸満市教育委員会2003『大度貝塚ほか発掘調査報告』糸満市文化財調査報告書第19集
- 106 糸満市教育委員会1998『大度貝塚－国営沖繩本島南部農業水利事業の米須地下ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－』糸満市文化財調査報告書第14集
- 107 糸満市教育委員会2003『大度貝塚ほか発掘調査報告』糸満市文化財調査報告書第19集
- 108 糸満市教育委員会1999『真栄里貝塚 発掘調査報告書』糸満市文化財調査報告書第16集
- 109 糸満市教育委員会1999『真栄里貝塚 発掘調査報告書』糸満市文化財調査報告書第16集
- 110 糸満市教育委員会1999『真栄里貝塚 発掘調査報告書』糸満市文化財調査報告書第16集
- 111 糸満市教育委員会1996『真栄里貝塚ほか 発掘調査報告書』糸満市文化財調査報告書第12集
- 112 糸満市教育委員会2010『真栄里兼久原遺跡－一般国道331号糸満道路建設工事に伴う緊急発掘調査－』糸満市文化財調査報告書第7集
- 113 糸満市教育委員会1986『川田原貝塚－範圍確認調査報告書－』糸満市文化財調査報告書第7集
- 114 友寄英一郎・高元政秀1969『フェンサ城貝塚調査概報』『琉球大学法文学部紀要』社会学篇第13号、pp.55-94、琉球大学法文学部
- 115 新里貴之2018『沖繩 フェンサ城貝塚の研究、2009～2011年度発掘調査』鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
- 116 多和田真淳・知念勇1965『多和田真淳調査収集の考古資料 (IV)』『沖繩県立博物館紀要』第11号、pp.1-14、沖繩県立博物館
- 117 高宮廣衛ほか1999『沖国大考古 第12号』波嘉敷村阿波連浦貝塚発掘調査報告』沖繩国際大学文学部考古学研究室
- 118 沖繩県立埋蔵文化財センター2016『慶良間諸島の遺跡－平成22～27年度県内遺跡詳細分布調査報告書－』沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書第81集
- 119 沖繩県立埋蔵文化財センター2016『慶良間諸島の遺跡－平成22～27年度県内遺跡詳細分布調査報告書－』沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書第81集
- 120 No.113と同じ
- 121 No.113と同じ
- 122 No.113と同じ
- 123 栗国村教育委員会1997『栗国村の遺跡－遺跡詳細分布調査報告書－』栗国村文化財調査報告書第1集
- 124 栗国村教育委員会2000『西御願貝塚ほか発掘調査報告書 西御願貝塚 浜崎原遺跡 東遺物散布地』栗国村文化財調査報告書第2集
- 125 渡名喜村教育委員会1990『渡名喜村の遺跡Ⅱ－圃場整備事業に伴う遺跡確認調査－』
- 126 沖繩県教育委員会1992『新空港・空港拡張建設計画予定地内の遺跡－新石垣空港・久米島空港拡張建設計画予定地内の分布調査報告書－』沖繩県文化財調査報告書第106集
- 127 沖繩県教育委員会1995『北原貝塚 発掘調査報告書』沖繩県文化財調査報告書第123集
- 128 盛本勲 1994『久米島大原第二貝塚B地点の発掘調査』『考古学ジャーナル』373、pp.30-33、ニューサイエンス社
- 129 沖繩県教育委員会1980『大原－久米島大原貝塚群発掘調査報告－』沖繩県文化財調査報告書第32集
- 130 具志川村教育委員会2000『大原第2貝塚 (C地点) 発掘調査報告書～個人住宅建設に伴う緊急発掘調査～』具志川村文化財調査報告書第3集
- 131 具志川村教育委員会1994『具志川村の遺跡－詳細遺跡分布調査報告書－』具志川村文化財調査報告書第2集
- 132 No.123と同じ
- 133 具志川村教育委員会1989『清水貝塚 発掘調査報告書』具志川村文化財調査報告書第1集
- 134 沖繩大学沖繩学生文化協会1975『郷土』第14号
- 135 仲里村教育委員会1996『仲里村の遺跡－詳細分布調査報告書第1集』仲里村分布調査報告書第1集
- 136 友寄英一郎1964『久米島謝名堂貝塚発掘概報』『琉球大学文学部紀要』社会学篇第8号、pp.1-16、琉球大学文学部
- 137 沖繩大学沖繩学生文化協会1975『郷土』第14号
- 138 仲里村教育委員会1996『仲里村の遺跡－詳細分布調査報告書第1集』仲里村分布調査報告書第1集
- 139 仲里村教育委員会1996『仲里村の遺跡－詳細分布調査報告書第1集』仲里村分布調査報告書第1集